

読売

教育ネットワーク

社会はまるごと学校——
すべての大人が先生です



白熱授業「エボラ熱最前線」 防護服での登場に驚きの声があがった（詳細は2・3面）

巻頭特集

エボラ熱最前線 白熱教室 2・3

長崎大学熱帯医学研究所 × 都立西など8校

東大阪市立柏田中 **5社が一斉出前授業** 4・5

レポート

女子7人制ラグビーチームを多角的に支援 6・7

順大女性スポーツ研究センター × カラ・ダ ファクトリー A.P.パイレーツ

学校×企業

東北生文高×第一生命 山口中央高×日本生命 8

「まわしよみ新聞」に記者もワクワク 9 お知らせ・短信 10 リレーエッセー 11

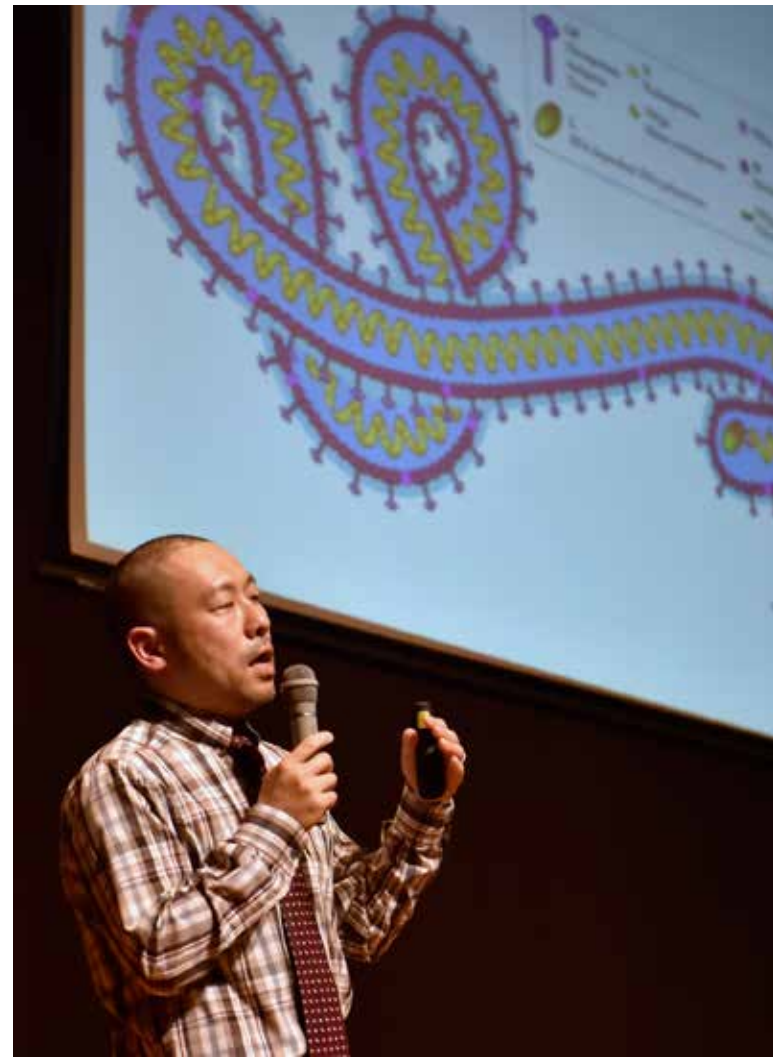
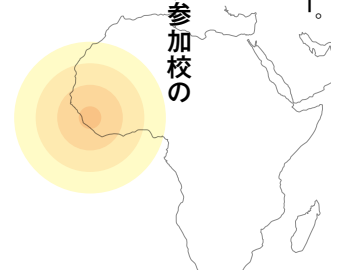
2015.5

Vol.5

長崎大学熱帯医学研究所 × 都立西など8校

エボラ熱最前線 白熱教室

エボラ出血熱は、なぜ西アフリカ3か国で猛威を振るったのか――。昨年、リベリアで感染封じ込めに従事した医師が4月25日、東京都立西高校(宮本久也校長)で「エボラ熱最前線」と題して国際貢献のあり方を考える授業を行った。読売教育ネットワーク参加校の西高など8校の中高生ら約120人が参加、活発に議論した。



エボラ熱について語る長崎大学熱帯医学研究所の鈴木医師

リベリアで活動・鈴木医師防護服で登場!
全身防護服に、ゴーグルとマスク。長崎大学熱帯医学研究所の鈴木基(もと)医師(43)が生徒たちの背後から登場すると、西高ホールに驚きの声があがった。「患者と接した後の防護服にはエボラウイルスが付着している可能性がある」「脱ぎ方を誤ると自ら感染してしまう。ゴーグルと手袋は特に気をつけたい」



昨年、エボラ熱ミッションで鈴木医師が派遣されたリベリア

舞台上上がった鈴木医師は、アフリカの炎天下で防護服を30分以上着用すると脱水で倒れてしまうこと、着脱を繰り返して活動することも説明。10分以上かけてシャツ姿に戻ったが、エアコンの効いたホールでも汗だくだ。感染症疫学の研究者であるのと同時に、「国境なき医師団(MSF)」の人道支援スペシャリストであり、内戦に苦しんでいたスリランカや紛争の続くパレスチナ・ガザ地区で活動してきた。昨年10月から12月までは、リベリア内陸部に設けられたMSFエボラ治療センターに派遣された。

国際貢献のあり方を巡り、生徒たちは多様な考えをぶつけ合った



鈴木医師も生徒たちの意見の一つひとつ丁寧に答えていった。「葬儀の風習が原因という指摘が出ました。でも、最後に

最愛の人に触れたいという願いは万国共通ではないでしょうか」と訴える。さらに、西洋医学と伝統医療が混在し、公衆衛生が普及していない脆い医療態勢、感染症への理解不足といった社会的背景を説明した。

「海外への医療支援は必要か」議論白熱

アフリカで活動した各国の支援者数と支援額のグラフを提示し、医療支援のため海外に赴く

「武装テロリストに拉致されれば国益を損ねる」「救える命を見捨てていいのか」など多様な考えが交わされた。30人以上が発信した授業。最後に鈴木医師は「何も olmayan スクと、行動した場合のリスクがある。エボラ最前線に駆けつけた医療従事者の多くは、そのバランスを考えていた」と指摘。多角的な視点と自ら判断する力が国際貢献には必要だと説いた。

1万人もの死者原因は?

感染力の弱いウイルスが、なぜ3か国で拡散したのか。なぜ、アフリカまで日本人が支援に駆けつける必要があるのか。授業の後半は、討論の時間となった。「1万人もの死者を出した、その原因をディスカッションしましょう」。会場に呼びかけると、次々と手があがった。「患者の葬儀で遺体に触れる風習があったのが原因ではないか」「内戦で社会が疲弊しているから」。事前課題を出され、新聞や書籍、世界保健機構報告書を調べてきた生徒たちの発言が途切れることはない。

国際貢献のあり方議論



長崎に戻るため最終便を予約していた鈴木医師は、授業を大幅に延長してギリギリまで生徒たちと議論を続けた

白熱教室 実現経緯

都立西高から教育ネットワーク事務局に長崎大学熱帯医学研究所の出席授業の依頼があり、リベリアで活動中の鈴木医師に大学が打診した。「確かな知識に基づいたディスカッション」を目指すことになり、鈴木医師が事前課題を準備。さらに「この機会をネットワーク参加校と共有したい」という西高側の提案を受け、参加校を募集した。鈴木医師は生徒が提出した課題全てに目を通し、講義内容を練った。

授業に参加して生徒の声

- ◆東京都立西高3年
日々の学びと異なる、全く新しいタイプの授業。議論が刺激的だった。
- ◆埼玉県立浦和高3年
次々と発言する他校の生徒に勇気ももらって質問することができた。
- ◆埼玉県立浦和第一女子高2年
異なる考えを持つ同世代がこれほど多くいるとは。新鮮!

- ◆埼玉学園女子高3年
エボラから快復した人を医師が人々の前で抱きしめ、村八分にならないよう体を張る姿に感動した。医師の理想像を見た。
- ◆渋谷教育学園渋谷高2年
日本人として、国際人として、そして個人として。国際貢献を考える本質が見えた。

※上記以外にも都立日比谷高、都立立川国際中等教育学校、栃木県立宇都宮女子高が参加した。

教師たちの声

授業を担当した渡邊正治・都立西高指導教諭は「生徒たちの心に何らかの火を灯すことができたと思う」と意義を語り、会場で見守った木戸英輝・埼玉学園女子高教諭も「他校の生徒と学ぶ授業は、生徒一人ひとりの力を引き出すことが分かった」と話した。

5社が一斉出前授業

東大阪市立柏田中

積水ハウスや日本取引所グループなど読売教育ネットワーク参加企業5社による出前授業が4月20日、大阪府東大阪市の市立柏田中学校（新屋和昭校長、生徒数234人）で2年生78人を対象に一斉に行われた。いずれも刺激的な授業で、生徒たちは興味深そうに実験やゲームに取り組んだ。

「地球に優しい家作り」 積水ハウス



実験の説明をする積水ハウスの杉村さん(中央)

積水ハウスは総合住宅研究開発所技術研究室課長の杉村保人さんから5人が、地球に優しい家作りをテーマに授業を行った。メインは素材によってど

のくらい断熱性能の違いがあるのかを確かめる実験。表面の一部を「ガラス」「アルミ」「鉄」などに変えた発泡スチロールの箱にドライアイスを入れて、生徒たちが実験前と、3分後の表面温度を測り、6分後の温度を予想した。6分後の温度を測ってみて、「ガラス」の箱がマイナス60℃にまで下がっていることが分かる。と、「へえーすごい」などと驚きの声が上がった。
最後に、アルミの間にプラスチックを挟んだ「アルミプラスチックサンド」にガラスを重ねた「ペアガラス」という最新の窓枠を見せて、室温を保つための工夫が進歩していることを説明。「断熱は住宅だけでなく、お風呂のふたなどいろいろなところで使われている。ちよつとした心がけでいろんなエコができる。皆さんもできることを考えてみよう」と呼びかけた。

「宇宙ステーション」 三菱重工業



宇宙ステーションの話をする三菱重工業の児玉さん(左)

三菱重工業の宇宙機器部で設計を担当している上席主任の児玉浩明さんの授業は、国際宇宙ステーションがテーマ。
宇宙ステーションの重力は地上の100万分の1で、外の温度はマイナス270.42℃。児玉さんは、ステーション内の温度や酸素濃度などの環境を地球と同じ状態に維持するため、全体が特殊な断熱材で包まれていることなどを紹介。「例えば宇宙船で火星に行くとする、4、5か月かかる。酸素などの補充が簡単にはできないので、リサイクルできる自立型の生命維持技術の開発が重要になっている」と説明した。
参加した西本莉子さんは「宇宙ステーションの中では、人も物も無重力で浮くということが分かった。もっと宇宙について知りたかった」と感想を話していた。

日本取引所グループは、広報・IR部（大阪）調査役の市田康恵さん、東京証券取引所CSR推進室調査役の飯田一弘さんら3人が教壇に立った。テーマは「株式会社のしくみと証券市場」。
市田さんは、株式会社の目的と役割を①利益をあげ、会社の価値を高めること ②良い商品・サービスを提供して、暮らしや社会を豊かにすること——と説明。1人あたり200万円を持っていてと仮定して、

「株式会社のしくみと証券市場」 日本取引所グループ



ボードゲームの説明をする日本取引所グループの市田さん(右から2人目)

経済ニュースを聞いて株式を売買するボードゲームを行った。景気や為替レートの変動に応じて投資先の株価が変わるたび、生徒からは「株が上がった」「お金がなくなった」などと声があがり、株式市場のダイナミズムを実感していた。
「株価の動きは社会経済を映す鏡。これからは身近なことから世の中の動きに関心を持ってほしい」と市田さんは生徒に呼びかけ、授業を締めくくった。

実験、ゲーム——世の中の動きを実感



投資について話す野村ホールディングスの酒井さん(右)

「投資について考える」 野村ホールディングス

野村ホールディングスは、金融リテラシー推進課ヴァイス・プレジデントの酒井賢一さんが、投資について考えることで意思決定の大切さを学ぶ授業を行った。
授業は、太陽光、風力、マグマなどをそれぞれ活用した4つの架空の発電会社の社長が自社をPRしたDVDを全員で視聴し、自分が投資家だったら、どの会社に投資するかを考えると

いう設定。生徒たちは3、4人ずつのグループに分かれて、「どんな技術を持っているか」「売れ行きはどうか」「社会に役立ちそうか」などの観点から比較分析して投資先の優先順位を決定、グループごとにその理由などを発表した。
この後、専門家のコメントが上映され、「目的をはっきりさせて、様々な角度から分析し、人の意見も聞きながら、自分自身で意思決定することが重要だ」との指摘があった。
授業を受けた山田琴美さんは「投資ってギャンブルのようなものだと聞いていたけど、会社がどう成長するかを見極めることだと知って、おもしろかった」と感想を語った。

「人生のリスクを考える」 第一生命

第一生命

第一生命保険は、消費者関係推進室次長の田中謙二さん、写真、右から2人目、と、布施支社（大阪）営業推進グループ課長の竹田友子さんが、同社オリジナルのすごろく「ライフサイクルゲームII」を使い、消費者が陥りやすい人生のリスクなどについて考えた。





「非凡なことに挑戦して」と熱く語る小笠原センター長

トロゲン分泌が抑制され、結果として疲労骨折のリスクが高まるのです」
 では、女性特有の様々な症状に対応するには、どうしたらいいのか。池畑さんが提案したのは①適切なエネルギーバランスを考えながら食べ、女性アスリートとして強い身体を作る②食事では特に鉄分を多く摂取する③月経周期を把握してセルフマネジメントを行う④の3点。トレーナーだけに頼らず、まず自らケアすることの大切さを訴えた。

第2部

女性スポーツ推進
非凡なことに挑戦しよう

第2部では、小笠原悦子センター長が世界と日本における女性スポーツの流れ、日本が直面する課題として女性指導者の少なさを説明。そのうえで、アスリートに求められる心構えを語った。中学高校時代に競泳選手だったこともあり、「私の夢は五輪にコーチとして参加することでした」。

志を実現するため小笠原さん

女子7人制 ラグビーチームを多角的に支援

順大女性スポーツ研究センター × A.P.パイレーツ

カ・ラ・ダ ファクトリー



女子7人制ラグビーチーム「A.P.パイレーツ」に講義する池畑研究員

将来の五輪選手を科学的・心理的にサポート——。順天堂大学女性スポーツ研究センターは5月7日、女子7人制ラグビー（セブンズ）の社会人チームに「女性アスリートの健康を守る」「女性スポーツリーダーシップ」などをテーマに出前授業を行った。

授業を受けたのは昨年1月から横浜市をホームに始動した社会人チーム「カ・ラ・ダファクトリーA.P.パイレーツ」の選手やトレーナーら約20人。整体サロンを展開するファクトリージャパングループ（FJG）が運営し、選手たちは午前中に練習、午後からは夜まで整体師として働く。目指すのは2016年リオ五輪から正式種目となったセブンズの日本代表入りだ。そこで、運動と医学の専門家が共同で女性アスリートを支援する同センターに、トップ選手に求められる体と心のセルフマネジメントの出前授業を依頼した。

第1部

女性アスリートの健康を守る

FJGの石川町研修所（横浜市）で行われた授業の第1部では、池畑由美研究員が女性選手と月経について講義

した。
池畑さんは、12年ロンドン五輪に出場した日本人女性選手へのJOC調査を紹介し、「66%の選手が過去、競技において月経や貧血など女性特有の問題を感じたことがありませう」と指摘した。
最高のパフォーマンスを発揮するには月経を司る女性ホルモンを知る必要があると説明したうえで、「髪や肌の潤いなど女性の魅力をコントロールする以外に、女性選手にとって大切な役割を担っています。その理由が分かりますか？」と選手たちに投げかけた。

女性ホルモンは骨を守ってくれる！

答えは「骨を強くする機能」。担っているのは女性ホルモン、エストロゲンだ。「問題なのは、激しいトレーニングによってエネルギー不足に陥ると月経が止まってしまふこと。そうになると、エ

んが取った行動とは、毎年渡米して競泳の全米女子学生選手権を見学することだった。会場では、優勝した選手とともにプールに飛び込むコーチの姿をまぶたに焼きつけ、「いつか私も、あの喜びを味わいたい」と思い続けたという。

この体験談をA.P.パイレーツの選手たちにも披露し、「夢を視覚化することはアスリートにとって大切」「このような人になりたいというロールモデルも必要です」と

説いた。
最後に、小笠原さんは「皆さんには、ぜひ非凡なことに挑戦してほしい。これからの女性スポーツのリーダーに求められる資質です」と、選手たちにエールを送った。

A.P.パイレーツの監督は、ラグビー元日本代表で快速ウイングとして活躍した吉田義人さんだ。5月10日、選手たちは休日返上で吉田監督やコーチとともに練習に汗を流していた。選手たちに授業の感想を聞いてみた。

選手の声

兼子あみさん (23)

女性には負荷をかけても良いオンの時と、身体を労わるべきオフの時があることを学べたので、基礎体温を測るなどして月経を自分の強みにしていきたい。また、アスリートとして食材の鉄分含有量も知りたいと思うようになった。夢の視覚化も含め、授業内容を今後に生かしたいと考えています。

渡辺莉沙さん (21)

短大時代はライフセービングに熱中したが体力的にはセブンズの方がタフ。でも、生理でお腹が痛いからといって休む選択肢はない。自分の身体をきちんと知り、身体を強くしてチームに貢献したい。その先に五輪があると思います。

A.P.パイレーツの監督はラグビー元日本代表の吉田義人さん(左)。選手たちは休日返上でボール争奪戦の練習に取り組んでいた

休憩なしのミニゲームでボール争奪戦を練習する選手たち



ゲームで人生のリスク学ぶ

東北生文高 × 第一生命



企業と学校の交流を図る「読売教育ネットワーク」の出前授業が5月14日、仙台市泉区の東北生文大高で開かれた。写真。第一生命保険の社員が講師となり、2年生約60人がさまざまな形式のゲームを楽しみながら、架空請求といった詐欺被害や借金など人生のリスクについて学んだ。

DSR品質推進部長の田中謙二さん(51)は「自由に使えるお金は給料の2〜3割程度。節約して楽しい人生を送ってほしい」と説明。赤間理央登さん(16)は「社会で生きていくためにはお金がかかることが分かった。しっかりと将来のことを考えたい」と話した。

同ネットワークには、第一生命をはじめ民間企業61社などが参加し、出前授業や就業体験などを随時行っている。問い合わせは読売教育ネットワーク(03・6739・6985)。(この記事は、5月15日付の宮城版に掲載されました)

将来の生活設計学ぶ

山口中央高 × 日本生命



生徒に質問する高山さん

企業と学校の交流を図る「読売教育ネットワーク」の出前授業が5月8日、山口市の山口中央高で開かれた。同ネットワークに参加している日本生命保険の社員が、2年生198人に将来設計について考えてもらう講演を行った。

講師を務めたのは山口支社の田中友貴さん(28)と高山晴加さん(26)。2人は就職や結婚、老後など、人生の節目で必要に

なる費用や社会保障制度などについて説明。生徒は、平均寿命や生涯未婚率に関するクイズに答えたり、熱心にメモを取ったりしていた。

聴講した大上剛司さん(16)は「非正規雇用の社員に一度なるとなかなか抜け出せないという話など、将来を考えるうえで参考になった」と話していた。(この記事は、5月9日付の山口版に掲載されました)



NIEの新しいツールとして熱い注目を浴びている「まわしよみ新聞」。4月25日、読売新聞東京本社で開かれた「NIE土曜サロン」で、小中高の先生たちに混じり、記者もハサミを手に体験してみた。

(石田汗太)

ルールを知った時からワクワクした。大阪の街づくりプロジェクト。デューサー・陸奥賢さんが考案したこの「遊び」は、参加者が新聞を回し読みし、気に入った記事を切り抜いて、その場で「壁新聞」を作るといったもの。

①あらかじめ準備せず、その場で新聞を開いて切り抜く。②記事の面白さを各参加者がプレゼンして「その日のトップ記事」を決める。これが「時間制限」と「勝負」という、ゲームの2大要素を巧みに満たしている。

この日参加したのは、各地から集まった先生約20人。5グループに分かれ、全国紙各紙や

読売KODOMO新聞など数日が配られた。「最低3つは切り抜いてください」と、全体司会のNIE企画デザイナー・鹿野川喜代美さんの指示が飛び交った。切り抜く時間は15分。かなり忙しいが、他の人が選びそうな大きな事件記事は避け、短くてもキラリと光る記事を探した。さて発表タイム。同じグルー

プの大塚功祐先生(千葉県立流山おおたかの森高校)が切り抜いたのは「国会にカジノ法案提出へ」という記事。「先進国でカジノがないのは日本だけだ。すって」「でも公営ギャンブルがこんなにあるのに？」と、かなりの盛り上がり。首相官邸に落下した「ドローン」の記事と、小型ビジネス機「ホンダジェット」の記事を切り抜いたのは島貫勝義先生(北区立堀船中学校)。空つながらで面白い。

記者が切り抜いたのは、「防犯対策で名札を付ける小学生が減った」という小さなコラム。

「これも時代の流れですかね」でも、体操着にはまだ名字が付いてますよ」と、意外と話が弾んだ。最終的にカジノ記事がトップに選ばれ、名札の記事は左肩に貼りつけてもらった。

自分の発表も楽しいが、一番のワクワクは「他の人はどんな記事を出してくるかな？」という期待感だった。宝探しのよう

に楽しく、初対面でもすぐに打ち解けあえる「まわしよみ新聞」。やらないのはソンですよ。

「まわしよみ新聞」に記者もワクワク



気になる記事を探す石田記者(右)

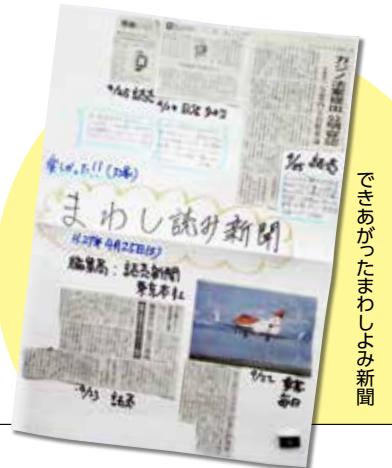


選んだ記事をグループごとにそれぞれ発表後、中央に集めて批評し合う

グループごとにどれをベスト3に選ぶか話し合い、まわしよみ新聞を作り始める



作成したまわしよみ新聞を手に、グループの代表がその中身と理由を発表する



できあがったまわしよみ新聞

と、大学の荘厳で美しい建物に目を奪われる。僕の寄宿舎も700年前の建物で、あたりは、静かで平和で、ゆったりとした雰囲気だ。でも、くつろぐ間もなく、最初の晩からすぐに、新入生歓迎行事が始まった。連夜、遅くまで新しい友人と話しこみ、朝になれば、早くから新入生セッションがあって、とても忙しい。第一週の終わりの日曜の夜は仮装パーティーでしめくった。

でも、怒涛のような時間は、始まったばかりだった。その日曜の夜から月曜の朝にかけては、最初の授業に提出する2000語のエッセーを徹夜で



セント・オラフス・グラマースクール(英ケンブリッジ州)卒業生、オックスフォード大学1年

海外で学ぶ・リレーエッセー⑤ 英オックスフォード大 「オックスフォードでの嵐のような8週間」

仕上げ、そのまま、3つの授業に出席した。大学生活の第一週は、かなりクレイジーだった。しかも、学期が進むにつれて、コーヒー片手に徹夜をするのは、珍しくないことがわかってきた。

とにかく、やるのがたくさんある。オックスフォード大学の一年は3学期制で、各学期2か月と短いけれど、毎日へとへとなる忙しさだ。だから、学期の間には、一か月の休みがあって、そこで、リラクゼーションして、充電する必要があるのだと思う。



瀧野俊太さん(本人提供)

海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェロシップ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留学フェロシップの詳細はウェブサイト (<http://ryu-fellow.org>) へ。

英語の原文は <http://the-japan-news.com/news/article/0002154267> でお読みいただけます。

「自分が望めば、奴隷になるの

も自由なのか」などと、厳しい質問をされると、僕のいままでの「自由」の理解でいいのか、深く問い返さざるを得ない。こうして僕の大学最初の1学期は、強烈な知的探求と、大忙しのソーシャルライフが混ざりあって、嵐のように過ぎていった。これからのオックスフォードで学ぶ3年間を思い切り楽しみたいと思っている。(会報編集部抄訳 The Japan News 2015年1月1日)

瀧野俊太さん



News

「ポケモン研究所」

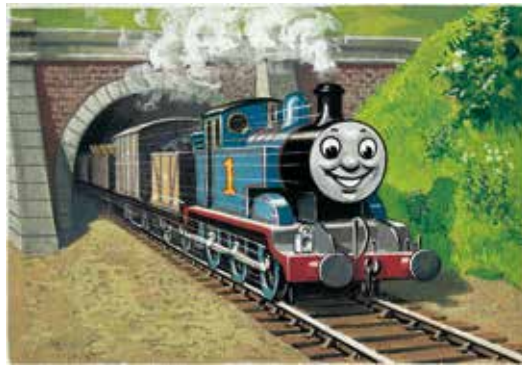
©2015 Pokémon. ©1995-2015 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc. ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリエーターズ・ゲームフリークの登録商標です。



ポケモンを題材に科学研究のプロセスができる新感覚・科学アトラクション展の「ポケモン研究所〜キミにもできる! 新たな発見〜」(日本科学未来館、読売新聞社主催、株式会社ポケモン、株式会社ポケモンコミュニケーションズ企画協力)が7月8日(水)から10月12日(月)まで、お台場の日本科学未来館で開催されます。

1日研究員となって「博士からのミッション」、「ポケモンコレクションルーム」、「キミにもできる新たな発見」の3つの研究室での体験を終えると、ポケモンの世界観を舞台に、「観察すること」「分類すること」など科学的なプロセスが学べます。詳しくは<http://pokemonlab.jp/>にアクセスをお願いします。

入場料は当日大人(19歳以上)1600円、中人(小学生〜18歳以下)1200円、中人土曜1100円、小人(3歳〜小学生未満)500円。問い合わせは、日本科学未来館(☎03・3570・9151)。



レジナルド・ダルビー「トーマスと貨車」1946年 ©2015 Gullane(Thomas)Limited.

きかんしゃトーマスとなかまたち

イギリスのウィルバート・オードリー原作の「きかんしゃトーマス」の原画、資料、映像の展示のほか、親子で楽しく鑑賞できる参加体験型作品などが展示される「きかんしゃトーマスとなかまたち」(主催:都歴史文化財団、都現代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会)が7月18日(土)から10月12日(月)まで、東京都江東区三好の東京都現代美術館企画展示室で開催されます。

1945年に英国で発行されてから原出版70周年を記念して開催するもので、オードリーが手がけた「汽車のえほん」シリーズから、4人の画家たちが描いた絵本原画、テレビシリーズ撮影用のモデル車両を通して、作品の世界と鉄道の魅力を探ります。

観覧料は一般が1200円(960円)、大学生・65歳以上900円(720円)、中高生700円(560円)で小学生以下は無料です(カッコ内の料金は20人以上の団体料金)。また、小学生以下のお客は保護者の同伴が必要です。問い合わせは、東京都現代美術館(☎03・5777・8600=ハローダイヤル)。

第1回「新聞検定」9月12日開催

読売新聞は、学研グループ・市進教育グループと協力し、情報を読み解く「メディア・リテラシー」の向上を目的とした「新聞検定」を今年初めて1都3県で開催します。用意された特定の日の読売新聞を読みながら、様々な問題を解く新しいスタイルの検定です。

新聞から正解を導くことを通して、情報を正しく読み解く力、視野を広げてもものを見る力、自分の考えを正しく伝える力を養う新聞検定は、ネット社会だからこそ必要な「メディア・リテラシー」を鍛えてくれます。

現在、専用ホームページを準備しています。詳細が決まりましたら改めてお知らせします。

【実施日時】 9月12日(土)	正しく伝える力
【検定料】 無料	【部門】 「初級」(小4〜6年生向け、検定時間50分)と、「中級」(中学生以上向け、検定時間50分)
【主催】 読売新聞東京本社	※問題用紙と新聞は持ち帰れます
【共催】 学研グループ、市進教育グループ	※親子で受験が出来る会場があります
【会場】 東京、千葉、埼玉、茨城の学研グループ、市進教育グループの各塾など	※上記内容は一部変更される場合があります
【検定内容】 ▽情報を正しく読み解く力 ▽視野を広げてもものを見る力▽考えを	

海外子女文芸作品コンクール

海外子女教育振興財団は「第36回海外子女文芸作品コンクール」への応募を受け付けています。世界各国に住む子どもたちが体験した様々な出来事や、その体験を通じて感じたことなどを日本語の作文や詩、短歌、俳句として表現するコンクールで、作品の応募は7月17日まで。

【応募資格】 現在海外で学ぶ日本の義務教育相当年齢の児童生徒(2002年4月2日〜09年4月1日生まれ)	校、補習授業校では各校がとりまとめず。日本人学校などに通学していない児童生徒は財団ホームページ (http://www.joes.or.jp/bungei/ty/bungei.html)を確認してください
【テーマ】 海外生活を題材にしたもの	【問い合わせ】 海外子女教育振興財団(☎03・4330・1344)へ。メールは (kyoshitsu@joes.or.jp)
【募集部門】 作文・詩・短歌・俳句(作文と詩は1人1点、短歌と俳句は1人3点以内)	
【応募方法、応募様式など】 日本人学	

イノベーションキャンパス in つくば2015

最先端の科学技術や、社会における「イノベーション」の重要性を学ぶ高校生対象のサマースクール「イノベーションキャンパスinつくば2015」(茨城県、茨城県教委、つくば市、つくば市教委、読売新聞社主催)が8月19日から21日まで、つくば国際会議場(つくば市竹園)で開かれます。LINE株式会社顧問の森川亮さんによる基調講演のほか、長沼毅広島大准教授による特別講義、研究機関や企業の第一線で活躍する講師による選択講座など多彩なプログラムが用意されています。定員1000人(第1部)。参加無料。希望者はホームページ (<http://www.yomiuri.co.jp/project/mirai/>)などで申し込んでください(6月下旬から受付予定)。なお、申し込み多数の場合は、抽選となります。



昨年度の開校式

第2回 高校新聞部 インターハイ新聞コンクール

全国高校総体(インターハイ)に向け、努力を続けてきた仲間たち取材した学校新聞を対象とする「第2回高校新聞部インターハイ新聞コンクール」(主催:読売新聞社)の作品募集が始まりました。

選手たちがインターハイの予選や本選に向けて練習を重ねる様子や、試合での活躍などを取材し、記事を掲載した学校新聞が対象。優秀作品は表彰し、読売新聞紙面や「読売教育ネットワーク」のホームページ (<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/>)に掲載されます。

参加申し込みは6月30日まで。新聞提出の期限は9月4日。参加申込書の請求や問い合わせは、読売新聞東京本社・教育ネットワーク事務局内のコンクール係(☎03・3217・1967、academy@yomiuri.com)。